

日時 令和3年8月23日(月)
14時から16時まで
場所 オンライン会議

令和3年度緑のボランティア活動に関する指導者育成委員会
(第1回)

会 議 次 第

1 開 会

2 議 題

- (1) 指導者育成講座 令和3年度基礎講習の状況報告
 - ・資料1 緑のボランティア指導者育成講座概要
 - ・資料2 令和3年度基礎講習について
 - ・資料3 基礎講習の広報活動について

- (2) 指導者育成講座 令和4年度の専門講習について
 - ・資料4 平成29年度専門講習内容及びアンケート結果
 - ・資料5 令和4年度専門講習の方向性
 - ・資料6 専門講習の課題と改善策

3 閉 会

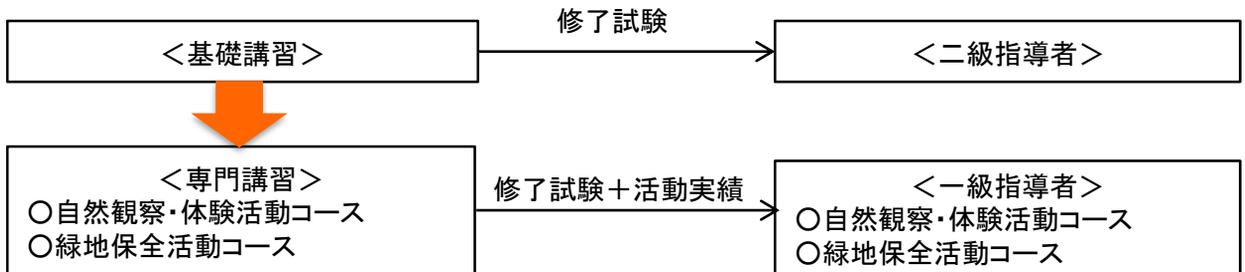
緑のボランティア指導者育成講座概要

1 目的

都民の自主的な活動を支援・促進していくため、自然観察や緑地保全などの知識や技術を持ち、都民やボランティアグループなどの求めに応じて、指導や助言を行う人材を育成することを目的とする。

2 概要

緑のボランティア指導者育成講座は、主な活動内容に応じて講習区分を設け、知事が認定及び認証を行う。



3 指導者に求める姿

【基礎講習】

基礎的な指導、助言及び単発的な企画の立案・運営等ができる程度

【専門講習】

高度に専門的な指導、助言及び継続的な企画の立案・運営等ができる程度

4 受講要件

【基礎講習】①及び②を満たす方

①都内に在住、在勤、在学、又は都内で緑のボランティア活動をしている18歳以上の方

②都内での緑のボランティア活動経験が年10日間以上で、かつ1年以上の実績がある方

【専門講習】両コース共通

東京都二級緑のボランティア指導者の認定を受けている方

5 受講修了

規定時間の8割以上受講した方を講習修了者とする。

講習区分	規定時間	講座修了者
基礎講習	36時間	29時間以上受講
専門講習	60時間	48時間以上受講

6 認定要件

【基礎講習】

基礎講習（指導者基礎コース）を修了し、かつ、修了試験に合格した方を「東京都二級緑のボランティア指導者」に認定

【専門講習】両コース共通

専門講習を修了し、かつ、修了試験に合格した方で、都内で指導者としての緑のボランティア活動経験が年20日間以上あり、その期間が通算して3年以上の実績がある方を「東京都一級緑のボランティア指導者」に認定

令和3年度基礎講習について

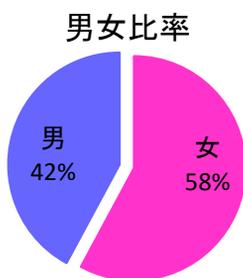
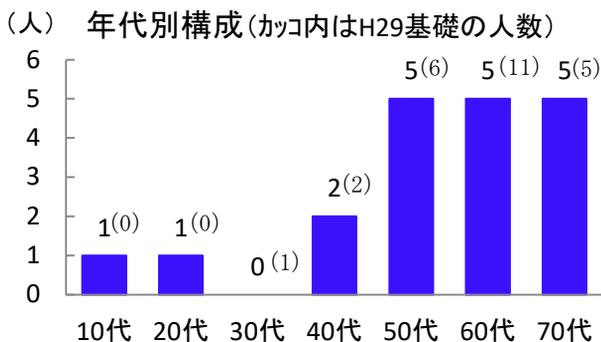
1 基本情報

◆計19名（H29年度基礎 25名）
※コロナ対策として定員を
通常の前半（25名）に設定

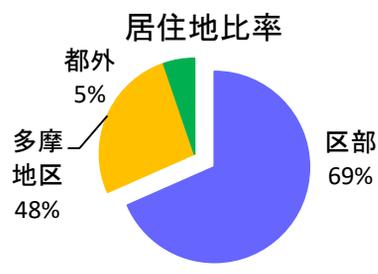
◆平均年齢58.1歳
（H29年度基礎 61.6歳）

◆平成29年度からの変化

- ・10～20代が増加、
50代以上が平準化
- ・男女比率が逆転
- ・区部からの受講者が増加



(参考) H29基礎：
男性60%、多摩40%



(参考) H29基礎：
区部40%、多摩48%

2 受講者の属性とポイント

年代	人数	主な活動団体	年間活動日数 (平均)	備考
10代	1名	環境サークル	10日	
20代	1名	公園ボランティア	24日	
40代	2名	森林ボランティア (2)	29.5日	・所属団体の他にもスポット的な活動に参加
50代	5名	保全地域ボランティア (2) 公園ボランティア (2) 緑化ボランティア (1)	11.8日	
60代	5名	公園ボランティア (2) 緑化ボランティア (2) 森林ボランティア (1)	46日	・体系的に学んだことがない。 ・指導者の基礎を学びたい。 ・緑地保全に興味がある。 ・同じ思いの人とつながりたい。
70代	5名	保全地域ボランティア (4) 緑化ボランティア (1)	28.8日	・緑地保全に興味がある。

◆本講座のメインターゲットである40～60代が12名
→令和4年度専門講習の受講を促し、指導者層としての成熟を目指す。

◆平成29年度の基礎講座では見られなかった若い受講者が2名
→他の年齢層との交流機会を設けたい。

◆保全地域ボランティア以外の緑のボランティア団体に所属する受講者が多数
→緑地保全活動に興味を持っており、未来の構成員となる可能性がある。
保全地域ボランティアとのマッチング機会の提供を検討したい。

令和3年度基礎講習日程一覧表

講習日	科目	場所（予定）
令和3年7月3日（土）	「持続可能な活動に向けたコンセプトワーク」 10：00～15：00（4時間）	二庁ホール 又はWEB （講義）
	「東京の緑環境行政」 15：00～16：00（1時間）	
令和3年7月10日（土）	「緑地保全活動のリスクマネジメント」 10：00～15：00（4時間）	都民ホール 又はWEB （講義）
令和3年9月18日（土） 予備日：令和3年9月20日（月・祝）	「生物多様性に基づく緑地管理手法と保全活動」 10：00～16：00（5時間）	東豊田 緑地保全地域 （実技）
令和3年10月2日（土） 予備日：令和3年10月3日（日）	「保全活動事例からの学び～自然公園管理の実態～」 10：00～16：00（5時間）	明治の森高尾 国定公園 （実技）
令和3年10月30日（土） 予備日：令和3年10月31日（日）	「動植物に関する分類群別調査・観察の核心」 10：00～16：00（5時間）	八王子滝山 里山保全地域 （実技）
令和3年11月20日（土） 予備日：令和3年11月21日（日）	「自然解説のためのプログラム化技法」 10：00～16：00（5時間）	小峰公園 （実技）
令和3年12月11日（土）	「野外活動における応急救命法」 13：00～16：00（3時間）	新宿区内会議室 （実技）
令和4年1月10日（月・祝）	「持続可能な活動にするための組織作り」 10：00～15：00（4時間）	新宿区内会議室 （講義）
	修了試験	新宿区内会議室

基礎講習の広報活動について

1 募集期間の拡大

- ・今回から基礎講習と専門講習を別の年度に実施することになったため、基礎講習の初回講義を遅らせ、募集期間を2か月設けた。

(参考) 平成29年度基礎講習 募集締切 … 4月末
令和3年度基礎講習 募集締切 … 5月末

2 広報媒体の拡充

◆紙媒体による周知

- ・広報東京都5月号への掲載
- ・区市町村広報誌への掲載(4区市)
- ・公共施設でのチラシ配架(11箇所)
- ・区町村ボランティアセンターでのチラシ配架(62箇所)
- ・保全地域活動団体へのチラシ配布【NEW】
- ・他管轄ボランティアへのチラシ配布(11箇所)【NEW】
- ・基礎講習 講師

◆WEB媒体による周知

- ・環境局ホームページ掲載
- ・環境局公式Twitterへの投稿
- ・「里山へGO！」ホームページ掲載
- ・「里山へGO！」メールマガジン配信
- ・「イマde×タマ」掲載
- ・「環境らしんばん」掲載【NEW】

3 チラシのリニューアル

<表紙面>

重要な情報は表紙面に掲載



ポイント①
「指導者育成講座」は副題に留め、見出しを工夫



ポイント②
イメージが湧くような活動風景の写真を挿入

専門講習を次年度開催する旨明記

<中面>

● 緑のボランティア指導者育成講座 ● 基礎講習日程

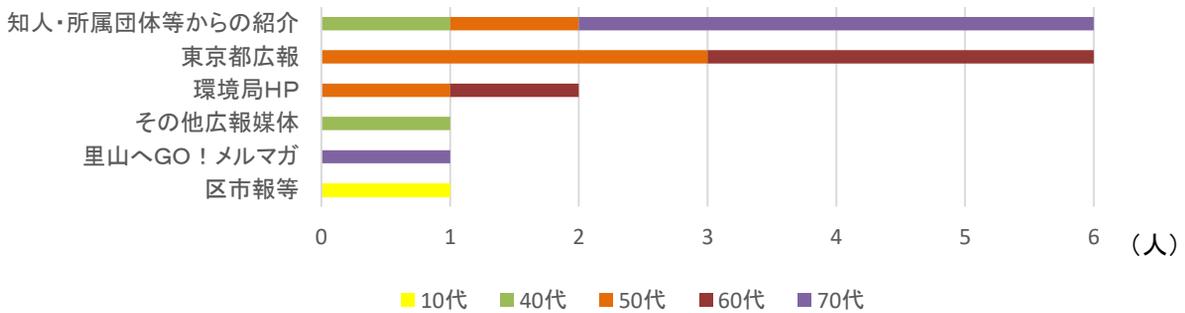
科目名	概要	日にち	時間	講師
指導者育成体験活動	出席者の確認説明	—	9:30~10:00	—
持続可能な活動に向けたコンセプトワーク	自身の経験や関心をもとに、抱懐すること、今後の活動の方向性を決定し、立案計画を立案する。	7月30日(土)	10:00~15:00 (休講1日)	公益財団法人日本自然保護協会 学生活動推進部長・奥川 幸一
東部の緑地移行計画	東部の緑地移行計画の保全と今後の取組方法を学ぶ	—	15:00~16:00	東京府環境
緑地保全活動のリスクマネジメント	緑地保全活動の現場でのリスクマネジメントについて説明し、自然の保全に活動できる範囲を拡大する	7月10日(土)	10:00~15:00 (休講1日)	NPO法人環境保護大学校 事務局長・佐藤 幸一
生物多様性に基づく緑地管理手法と保全活動	生物多様性に関する基本事項について学び、実践する	9月18日(土) 午後 9月20日(日)	10:00~15:00 (休講1日)	NPO法人森づくりフォーラム 理事長・松井 一郎
保全活動現場からの学び-自然保護活動の経験-	東京府ボランティアセンターの活動事例を学ぶ	10月20日(土)	10:00~16:00 (休講1日)	東京府ボランティアセンター 理事長・野村 浩
動物種に関する知識の習得と、観察の心得	動物種の観察、観察のポイントについて、分科別講習を学ぶ	10月30日(土) 午後 10月31日(日)	10:00~16:00 (休講1日)	NPO法人自然環境アカデミー 代表理事・小川 孝生
自然観察のためのプログラム化技法	自然観察プログラム化するための観察性を学び、インターネット上での発信方法を学ぶ	11月20日(土) 午後 11月21日(日)	10:00~16:00 (休講1日)	NPO法人自然環境センター 理事長・小川 孝生
野外活動における応急処置法	野外での基本的な応急処置方法を学ぶ	12月11日(土)	13:00~16:00	東京消防庁
持続可能な活動にするための組織作り	指導者の役割と責任を学び、組織の活性化と発展に向けた活動推進の取組方法を学ぶ	1月10日(日)	10:00~15:00 (休講1日)	東京府自然環境センター 副理事長・野村 浩
終了試験	—	—	15:00~15:30	—

ポイント③
デザイン性を重視し、フルカラーで作成

ポイント④
受講による効果について過去の受講者の声を紹介



4 R3受講生が本講座を知ったきっかけ



- ・所属団体で口コミを聞いたり、チラシを受け取ったりして申し込む方が多かった。
 - ・東京都広報を見た方から、チラシの配架場所の確認や、送付依頼があった。
- ⇒紹介や広報を通じて講座を認知する方が多い。

5 今後の広報活動の方向性

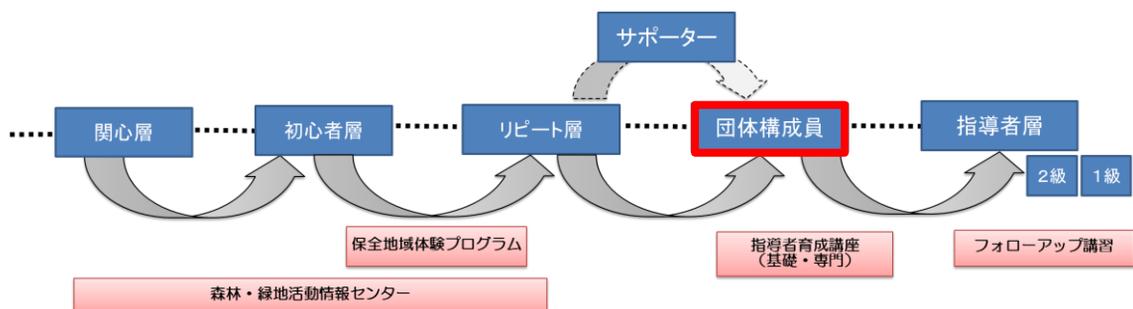
- ◆緑のボランティア団体の構成員への周知を強化する。
 - ・保全地域活動団体や緑のボランティア団体などに対し、メールとチラシを送付。それぞれの団体における会報やメルマガでも周知を依頼する。
- ◆緑のボランティア活動に関する情報収集を行っている層にアプローチする。
 - ・環境局や里山へGO！のホームページやSNSを積極的に活用する。
 - ・ボランティアセンターや環境情報サイトなど既存の組織や媒体を活用する。

6 令和4年度専門講習※の広報活動

※基礎講習を修了し二級緑のボランティア指導者の認定を受けた方が対象

- ◆過去に基礎講習を修了した方への周知を強化する。
 - ・保全地域活動団体や緑のボランティア団体に対し、メールを送付。
 - ・環境局や里山へGO！のホームページやSNSで呼びかけを行う。
 - ・直近の基礎講習を修了した方にダイレクトメールを送付する。

令和6年度基礎講習の募集に向け、本講座の対象となる緑のボランティア団体構成員の増加を図ることが大前提である。引き続き自然体験活動などの普及啓発イベントやサポーター制度を推進していく。



平成29年度専門講習内容及びアンケート結果

<自然観察・体験活動コース、緑地保全活動コース共通> ※赤字：実践活動に係る科目

日時・場所	科目	自由意見	満足度	時間
10/22 NSビル	専門講習ガイダンス（講義） 13:00～14:00 1時間	—		
	行政との協働（講義） 14:00～16:00 2時間	—		
10/28 野山北・六道山公園	緑地保全活動に向けた植生調査（実習） 10:00～16:00 5時間	—		
11/4 八王子滝山里山 保全地域	順応的管理手法での保全（実習） 10:00～17:00 6時間	<ul style="list-style-type: none"> ◆1日がかりの講義でもよい。 ◆時間が足りない。もっと聞きたかった。 ◆自分のフィールドへの置き換えが難しい。 		
12/9 小山内裏公園	生き物調査の進め方（実習） 10:00～14:00 3時間	◆もう少し時間をかけて観察したい。		
	「実践活動」中間相談会（ワーク） 14:00～15:00 1時間	<ul style="list-style-type: none"> ◆この時点では発表のイメージがつかめなかった。 ◆ただグループで発表するだけで終わってしまった。 ◆グループでうまく時間配分できなかった。 ◆経験に差があり、受講者同士の相談は難しい。 ◆講師を囲んで意見交換できると良いのではないか。 ◆講師と相談したかった。 ◆活動時期の季節を誤ってしまった。 		
1/13 二庁ホール	安全管理・安全対策（講義） 10:00～15:00 4時間	<ul style="list-style-type: none"> ◆安全管理マニュアルについて詳しく聞きたかった。 ◆シミュレーショントレーニングなどがあると良い。 ケーススタディを行い、発表しても良いのでは。 		
1/20 二庁ホール	NPOの運営実態・ミッションの形成 （講義）10:00～15:00 3時間半	◆もっと早い時期に講義を聞きたかった。		
	「実践活動」最終相談会（ワーク） 15:00～16:00 1時間半	<ul style="list-style-type: none"> ◆最後まで発表のイメージがつかめなかった。 はじめに実践活動の発表例を示したほうが良い。 ◆グループ発表より個人のテーマと内容についてアドバイスを求める時間が欲しかった。 		

2/4 二庁ホール	「実践活動」の発表とその評価 10:00~16:00 5時間	—		
--------------	-----------------------------------	---	--	--

<自然観察・体験活動コース>

日時・場所	科目	自由意見	満足度	時間
11/25 神代植物公園	自然観察体験活動の企画・運営（実習） 9:30~16:30 6時間	—		
12/2 石神井公園	コミュニケーション技術・参加者への伝え方 （実習）10:00~17:00 6時間	—		
12/16 八王子市長池公園	自然観察体験活動の実践（子供向け） （実習）10:00~16:00 5時間	◆講義内容は理解できたが実践が難しい。		

<緑地保全活動コース>

日時・場所	科目	内容	満足度	時間
11/19 高尾の森自然学校	緑地保全活動の実践（実習） 10:00~17:00 6時間	◆講義内容は良かったが、実習内容が易しかった。		
11/26 七国山緑地保全地域	企業や学校との体験活動（実習） 10:00~17:00 6時間	—		
12/23 東豊田緑地保全地域	緑地における保全管理と利活用（実習） 10:00~16:00 5時間	—		

実践活動アンケート結果

質問	回答	自由意見
1 実践活動に割く時間の目安として、11時間程度と設定しました。この時間配分についてどう思いますか。	<p>とても長い 0% すこし短い 30% ちょうど良い 70% 少し長い 0% とても短い 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ テーマ選定から企画・スケジュール作成・現場下見を考慮すると短いと思う。 ◇ じっくり時間をかけたいのでちょうど良い時間になった。
2 実践活動の発表時間の目安として、発表8分間・質疑5分間と設定しました。この時間配分についてどう思いますか。	<p>とても長い 0% すこし短い 27% ちょうど良い 73% 少し長い 0% とても短い 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 自分はこのような活動が苦手なのでちょうど良かった。 ◇ 聞く方も大変なので、概ね妥当。 ◇ 伝えたいことから実践計画までを話すと、当初予定の5分では短い。 ◇ 当初5分の発表時間から8分に変更になり、時間的にちょうどよかった。
3 実践活動の発表方法について、形式自由としました。これについてどう思いますか。	<p>大変不満 0% 不満 7% 大変満足 33% 満足 33% 普通 27%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 色々な発表形式で大変良かった。 ◇ ポイントさえ明確であれば形式は自由で良い。 ◇ 人によって得手不得手は違うので、形式自由は良いと思う。一方、事務的見本があっても良いかもしれない。 ◇ もっと早い段階で課題を洗い出し、改善をすることでより深く理解が生まれてくると思う。
4 実践活動は、講座の理解を深めるために役立ちましたか。	<p>全く役立たなかった 0% 役立たなかった 0% 普通 27% 大変役立った 18% 役立った 55%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 今までの活動の誤り等見直すことができた。 ◇ 実践活動でしかわからないこともあった。 ◇ どの場面で何を活用できるだろうか？と頭と体を使うことで身に着くことがあると感じた。 ◇ 自分でやってみるとスケジュールの見直しができる。想定計画では無理があったとわかった。 ◇ さまざまな活動を聞くことができ、参考になった。
5 実践活動の取組を今後の講座でも継続していくべきだと思いますか。	<p>いいえ 9% はい 91%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 活動場所で行っていることがベストとは限らないので（継続したほうが良い）。 ◇ 学んだことをどのように活かしていくかという視点を得ることができるので、継続したほうが良い。 ◇ 自然と学んだことが身に着くと同時に活動メンバーと知識の共有ができて良いと思う。 ◇ 実践に至るまでには時間が足りない。計画までであれば可能と思う。

令和4年度専門講習の方向性

1 実践活動の見直しについて

◆専門講習で育成すべき人材像

ボランティア活動を安全に企画・運営し、対象者に即して活動の意義を指導できる人
活動の目的や、活動地域の目指す姿を明確に描き、周囲の共感を得られる人

⇒平成29年度から「実践活動」制度及び相談会の導入

◆実践活動のねらい

受講生各自が学びを実践する活動（実践活動）を通じて、講座の習熟度向上を図る。

◆実施概要

・ガイダンス（専門講習初回）で実践活動の目的とテーマを説明。

テーマは原則次のいずれかを選択

①自然観察・体験活動又は保全活動（3時間程度）の企画及び実践

②安全管理や事業管理など、組織運営に関する計画作成と実践

講座の合間を縫って、各自で「実践活動」の企画・実施



・中間相談会（H29年12月）及び最終相談会（H30年1月）で実施状況を確認



・最終回（H30年2月）で各自の実践活動（内容、反省等）を発表。

◆受講生のテーマ一覧

	テーマ	実施状況
1	冬の奥多摩で自然観察ハイキングの企画	企画のみ実施。今後実践予定。
2	森のたんけん(場所未定)の企画	企画のみ実施。
3	利島村登山道での保全活動の企画	実践予定だったものを降雪により延期。
4	雑木林での植生調査の企画	企画のみ実施。今後実践予定。
5	生垣手入れボランティア団体の設立企画	2019年4月スタート予定。
6	雑木林ボランティアの新規会員定着に向けた改善策の検討	団体会員と話合いの実施。
7	竹を活用したキャンドル作り教室(子供向け)の企画	企画と試作品の製作まで実施。
8	保全地域での自然観察会の企画	企画のみ実施。
9	保全地域での活動計画の見直し	団体会員と話合いの実施。
10	高尾山での森林教室(子供向け)の企画	企画のみ実施。
11	雑木林での落葉かきイベントの企画	企画のみ実施。今後実践予定。

◆成果

- ・実践活動制度を取り入れることで、受講生が所属団体の会員と話合いを行ったり、講座の知識を共有したりする機会が創出された。
- ・机上の知識だけでなく、現場で活かせる「生きた知識」を身につけることができた。

◆課題

- ・講習開始時期が遅く、検討や調整に時間を要し、実施に至らなかった受講生もいた。
- ・中間相談会や最終相談会はグループでの受講生同士の意見交換が中心となっており、講師の助言を得たり相談したりできなかったという声が多数寄せられた。



◆平成29年度課題の改善

- ・講習開始時期が遅い
→令和3年度から基礎講習と専門講習を別の年度に分けたことで解決される。
- ・検討や調整に時間がかかり、実施に至らない
→令和4年度は、講習開始のガイダンスにおいて平成29年度の事例紹介を行う。
→テーマとスケジュール検討の時間を設け、受講生同士や講師との意見交換を行う。
実践活動の導入において丁寧にサポートを行うことで、スムーズにテーマを設定し、計画的に活動に取り掛かるよう促す。
- ・テーマについて、あまり講師の助言を得たり相談したりできなかった
→中間相談会及び最終相談会の体制を見直す。
令和4年度は講師の数を増やし、個別に助言を行うこととで、受講者の不安や疑問を解消する。

2 団体運営力向上のための特別講座の導入について

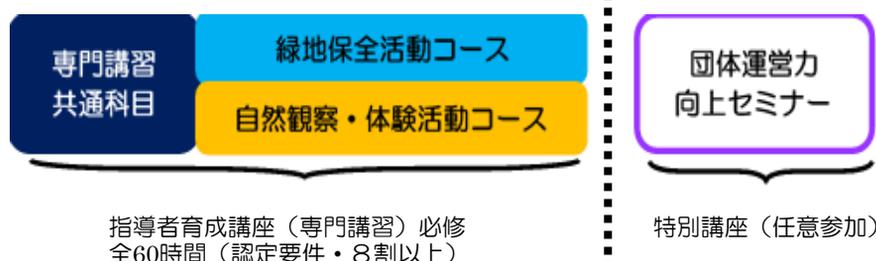
◆平成31年度委員会における議論

- ・本講座は、現場指導力のある指導者層の育成を前提としており、受講者の多くも現場指導に必要な知識・技術の獲得を期待している。
- ・近年、現場人口構成の変化に伴いボランティアの高齢化・担い手不足が深刻化し、持続可能なボランティア団体運営を行うことの必要性が高まってきている。



持続可能なボランティア活動の実現のため、団体運営に関する特別講座を設置する。ただし、受講者の目指す指導者像には個人差があることから、今回は団体運営に意欲ある受講者向けの任意講座とする。

<令和4年度>



◆団体運営力向上セミナー（仮称）

- ・受講料：無料（※）
- ・対象者：令和4年度緑のボランティア指導者育成講座（専門講習）受講生（※）
これまで緑のボランティア指導者（1級・2級）の認定を受けた方

（※）指導者育成講座は、規定の時間数を受講することで緑のボランティア指導者の認定資格を得ることができる。特別講座は、あくまで一部の意欲あるボランティアを対象にしたものであることから、指導者育成講座の規定時間には算入しないものとし、受講料も徴収しない。

- ・日程：全2日間

1日目 講義（案）

資金獲得、持続可能な活動のための人材育成、魅力的な広報、新たな団体立ち上げの準備、世代交代、団体の畳み方など。
行政との協働

2日目 ワークショップ又は座談会（案）

各所属団体の現状や課題について分析し、意見交換を行う。
他団体と比較して視野を広げ、より客観的な視点を持つ。

専門講習の課題と改善策

<共通> 32 時間

<実践活動> 11 時間

タイトル	形式 (時間数)	内容	形式 (時間数)	改善案 (R4 年度)
専門講習ガイダンス	講義 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ● 目的や講習体系について学ぶ。 ● 「実践活動」について説明する。 	講義 (0.5)	◇ 実践活動のガイダンスを分離
			ワーク (2.5)	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 実践活動のガイダンスを設定。 ◇ 進め方を説明し平成 29 年度の発表事例を紹介 ◇ テーマやスケジュールを検討する時間を設定し、講師や他の受講生との意見交換を実施
行政との協働	講義 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政との協働に必要な事柄を学ぶ。 ● ボランティア活動の展開と広報を考える。 	講義 (0)	◇ 特別講義で代替
緑地保全活動に向けた植生調査	実習 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ● 緑地の植生調査を行う。 ● 現状分析を基に、自然回復に向けた保全活動を考える。 	実習 (5)	—
順応的管理手法での保全	実習 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然環境に配慮した順応的管理を学ぶ。 ● 生物多様性の保全と管理・利用のバランスを理解する。 	実習 (6)	◇ 内容と時間配分について講師と調整が必要
生き物調査の進め方	実習 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ● 観察結果のまとめ方と活用方法を理解する。 ● 生物種の識別能力の向上を図る。 	実習 (3)	◇ 内容と時間配分について講師と調整が必要
「実践活動」中間相談会	ワーク (1)	<ul style="list-style-type: none"> ● 実践活動の進捗を報告する。 ● 実践活動に取り組むうえで困っている課題を解決する。 	ワーク (2)	◇ 少人数グループに分け、受講者同士や講師を交えた意見交換を行う。講師や補助スタッフを複数人配置することを検討

安全管理・安全対策	講義（４）	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動における安全管理の必須事項を学ぶ。 ● 運営側・企画側・参加者の立場の違いによる安全管理を学ぶ。 	講義（４）	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 内容と時間配分について講師と調整が必要 ◇ グループワークの導入を検討
NPOの運営実態・ミッションの形成	講義（４） ※当初4時間を予定していたが、実際は3.5時間に変更	<ul style="list-style-type: none"> ● NPOの運営実態と課題について理解する。 ● 活動や組織運営の長期的な方針作りを学ぶ。 	講義（４）	◇ 時期について講師と調整が必要
「実践活動」最終相談会	ワーク（１） ※当初1時間を予定していたが、実際は1.5時間に変更	<ul style="list-style-type: none"> ● 実践活動の進捗を報告する。 ● 実践活動に取り組むうえで困っている課題を解決する。 ● 発表に向けたブラッシュアップを行う。 	ワーク（１）	◇ 少人数グループに分け、受講者同士や講師を交えた意見交換を行う。講師や補助スタッフを複数人配置することを検討
「実践活動」の評価とその手法	ワーク（５）	<ul style="list-style-type: none"> ● 実践活動の発表を行い。講師より講評をもらう。 	ワーク（４）	—

<自然観察・体験活動コース科目> 17 時間

タイトル	形式 (時間数)	内容	形式 (時間数)	改善案 (R4 年度)
自然観察体験活動の実践 (子供向け)	実習 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然観察体験活動の企画・運営における必須事項を学ぶ。活動の企画・運営・振り返りを演習する。 	実習 (5)	—
自然観察体験活動の 企画・運営	実習 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ● 組織内外に対するコミュニケーション技術を学ぶ。インタープリテーション技術を学び、伝え方の演習を行う。 	実習 (6)	—
コミュニケーション技 術・参加者への伝え方	実習 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供という対象者を理解する。 ● 自然に親しむことを目的としたワークショップを学ぶ。 	実習 (6)	—

<緑地保全活動コース科目> 17 時間

タイトル	形式 (時間数)	内容	形式 (時間数)	改善案 (R4 年度)
緑地保全活動の実践	実習 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ● 緑地保全活動の中での安全管理を学ぶ。 ● 地域と連携した保全活動を学ぶ。 	実習 (5)	—
企業や学校との体験活動	実習 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ● 対象を考えた指導方法を演習する。 ● 外部との協働の進め方を学ぶ。 	実習 (6)	—
緑地における保安全管理と 利活用	実習 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ● 緑地保全活動の意義や生態系に及ぼす影響について学ぶ。 ● 保全活動を実践しながら、管理手法と活用方法を考える。 	実習 (6)	—